

～広島平和体験学習研修報告～

生涯学習

No.543

かおり高い
文化のまち

発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習
編集委員会

〒 393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.
shimosuwa.lg.jp

生涯学習 2019.8 10



広島平和記念公園にて

平成最後の広島平和体験学習は、平成三十年七月二十六、二十七日の両日に渡って、下諏訪中学校、下諏訪中学校両校から八名の生徒さんが参加して行われました。
この報告は、同年八月十五日に行われた下諏訪町戦没者追悼式当日における発表をもとに、まとめられたものです。



研修テーマ：当時のことを知り、 今、自分に何ができるかを考える

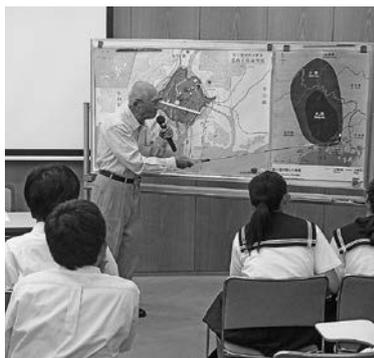
今回の体験から、広島で見てきたこと、聞いたことを現代の人達に伝えていくこと、現代の人達に原爆の恐ろしさを知ってもらふ必要があると感じました。世界中の人達に広島や長崎で起きたことを知ってもらい、戦争のない世の中にしていくことが大切だと思います。 社中 うちやま内山 ゆか裕奏

研修テーマ：当時の大変さを知り、 現代へ伝えていく

当時多くの児童は疎開をしていましたが、残っていた児童のほとんどが一瞬にして命を失いました。・・・美しい星空は今までと少しも違ってないのに、地上は一夜で変わり果てた焼け野原になってしまいました。・・・二度と戦争が起こらないように、あの日の出来事を忘れてはいけな
と、強く感じました。 社中 つるづか鶴塚 あいら愛来



当時の教室風景



被爆者の方のお話を聞く

研修テーマ：被爆者の思いを知る

被爆後の死者数は約14万人と推定されています。一命を取り留めた人も、その後白血病やその他のガンで多くの方が亡くなりました。今回話をしてくださった国分（くにわけ）さんも、今も甲状腺の病気で苦しんでいます。被爆者の方々は、世界中からの核廃絶を願っています。 社中 にしざわ西澤 そうじろう幸次郎

～広島平和体験学習研修報告～



ボランティアの方のお話を聞く

研修テーマ：原爆の恐ろしさを現代に伝える

資料館では、被爆者の遺品や被爆前と被爆後の変わり果てた広島の様子についての展示がありました。活気溢れる被爆前の広島が、被爆後には何もなくなり、そこには静けさしかないような無の世界が広がっていました。数々の遺品は、当時の人々のもっとも生きてきたかったという無念の思いを物語っているようでした。

社中 御子柴 優叶

研修テーマ：被爆された方の実際の声を聞こう

原爆投下からの日数、最後の核実験からの日数を示す、地球平和監視時計です。広島の人々の核廃止への思いの強さを表していると思いました。元々原爆は許せないと思っていましたが、実際に聞くことで生々しい被害を知ることができ、改めて原爆は許せないと思いました。戦争・核兵器の悲惨さを友人に伝え、核兵器が使われない世界にしていきたいです。

下中 西山 知希



地球平和監視時計



遺物に触れて確かめる

研修テーマ：原爆についてもっと深く知り、 原爆のことを知らない人に伝えたい

原爆の威力は大きく、人々だけでなく建物や物を破壊しました。つるつるした瓶の表面をブツブツに変えてしまう熱線、建物を破壊する爆風などが広島を襲いました。原爆の話を知り、その破壊力を改めて知りました。広島の人々の思い、原爆の恐ろしさを人々に伝えていきたいです。

下中 有賀 ずづな

研修テーマ：戦争の悲惨さを実感し、 加害者の立場として気持ちを調べる

研修に行ってみて、戦争の悲惨さだけでなく、それを乗り越えようとした人々の平和への想いも知りました。日本は加害してしまったこともあります。それだけ世界はむごいことを繰り返している。戦いをしてしまったことを反省し、二度と起こらないようにしていきたいと思いました。

下中 両角 夏子



中学生も軍需工場で働きました



研修テーマ：被害者・加害者の両面から 戦争について研修し、認識を養う

原爆死亡者慰霊碑には、「安らかにお眠りください。過ちは繰り返しませんから。」と書かれています。私は、日本だけでなく、世界で過ちを繰り返さないことだと思いました。本当の平和とは何か。誰もが生き、世界の全員が笑っていけるように世界を作り直していかななくてはと思いました。

下中 中村 昂伸

市町村対抗小学生駅伝を終えて



下諏訪町駅伝監督

小口 秀哉

毎年この下諏訪町の小学生代表チームを結成して大会に参加するにあたり、選手たちには結果よりも大会に挑む過程を大切にしていってほしいと言っています。今年も同じ気持ちで取り組み、活動してきました。他市町村も同様ですが、他の競技と掛け持ちの選手がほとんどでしたが、他の競技での飛躍の足がかりになればとも思いながらの活動でした。

目先の結果よりも将来的に心身ともに大きく飛躍できる基礎を小学生時代に身に付けることを一番重視しなければとも考えます。その意味では、今年の選手は基礎体力が小学生にしてはしっかりしていて、ひよっとすると上位入賞、あわよくば総合優勝も狙える逸材だと思いました。



今回上位入賞できて、選手たちももつと速くなりたい、他のスポーツでももつともつと活躍したい；等々、より前向きな気持ちになるきっかけにしてもらえたのなら嬉しいですね。選手たちの陸上競技に限らずこれからの活躍を楽しみにしています。

私は、これからも年間を通して、気持ちの良い汗を流すことで良き出会い良き仲間づくりと思いい、土日祭日の朝の集い、火木の夕方練習会を愛好者たちと盛り上げていければと思っています。

走る楽しさ



南小六年 田村 ろう

私は、駅伝で一区を担当しました。駅伝に出ようと思っただけは、走ることが好きで、いろいろなことに挑戦してみたかったことと、チームのみんなと協力して走れることはすばらしいことだなあと考えたからです。

練習に参加してみると、みんなが走ることを楽しんでいました。仲間が増え、走るのもつと好きになりました。

そして迎えた本番。あいにくの天候で、すごく寒かったです。スタートラインに立ったとき、「絶対に町の部で優勝してやる」と、思いました。

そしてゴール。タイムは昨年より約一分速くなっていました。「町の部優勝です」と言われたときはとてもうれしかったです。また、チームの人達と走れて楽しかったです。

このことを通して走ることがもつと好きになり、これからも走ることを続けたいと思いました。この駅伝は最高の思い出になりました。

走り続ける



南小五年 山崎 那々

私は、駅伝大会があるというお話を聞いて、出場したいと思いました。最初はみんなについて行くのは大変だったけど、いっぱい練習しているうちに、だんだんついていけるようになり、いままでよりもつと走ることが好きになりました。

はじめ7位だと聞いて、ちょっとくやしかったけど、町の部で優勝だと聞いて、ものすごくうれしかったです。来年もこの大会に出場して、今度は全休で優勝したいです。

しよ来は、オリンピックの陸上の選手になって、金メダルをいっぱい取りたいです。あともう一つ夢があつて、女子プロ野球選手になり、エースで4番を打てる三刀流に絶対なりたいです。

市町村対抗駅伝、がんばったぞ 北小六年 ロバーツ タージ



ぼくは、去年も市町村対抗駅伝に出ました。18位という結果で、最後の直線でぬかれてしまったので、リベンジみたいな感じで今年も市町村対抗駅伝に出ました。

ぼくは、四年生から小口コーチのすてきな陸上チームに入っています。小口コーチは本当にすばらしい人で、練習に行くのがいつも大好きです。めっちゃ足の速い人達もいて、その陸上の仲間と一緒に練習することで、自分の走りを向上させることができました。

ぼくたち下諏訪町が町の部で一位優勝したときは、とてもうれしくて飛び跳ねました。ほんとにうれしかったです。応援していただいた皆さん、チームの仲間とコーチのおかげですばらしい結果を出すことができました。本当にありがとうございます。これからも陸上競技をがんばって、チャンスがあったらこのような大きい大会にも出て行きたいと思っています。

がんばった駅伝

南小六年 門輪 倅太郎



ぼくは、いつもバスケットボールをやっています。でも3年前にお兄ちゃんやんが駅伝に出て、応援に行きました。その時お兄ちゃんがかっこよくて、ぼくも出てみたいと思いました。そして5年生の時から駅伝に出ました。

バスケットの練習とはちがい、いつも自分との戦いでした。「つらいなあ」、「やめたいなあ」と思うこともいっぱいでした。でもがんばったことで、町の部で優勝できたのだと思います。

ひとりで走るときは、不安だったし、つらかったりしたけど、タスキをチームメイトにわたせたときはうれしくて「ホッと」しました。そして町の部で優勝できたときは、うれしかったです。

仲間と力を合わせ、自分の力を出し切ることは、これからも駅伝だけでなく、バスケットボールでも学校生活でも生かしていきたいと思いました。

下諏訪体育館からのお知らせ

お問い合わせ 下諏訪体育館 TEL 0266-27-1455

第20回下諏訪ギネスに挑戦！ & 体力年齢がわかるカラダチェックコーナー

参加無料

日時 8月25日(日) 午後2時00分～午後4時30分 (午後1時30分受付開始)

会場 下諏訪体育館アリーナ

持ち物 運動のできる服装、上履き、飲み物等

対象 町在住・在勤・在学の方 (小学生未満は大人の付き添いが必要です)

主催 下諏訪町教育委員会、下諏訪町地域包括医療推進協議会

下諏訪ギネスにチャレンジ！

未就学の部～70歳以上の部に分け、全6種目の歴代記録の更新を目指します！

記録を更新された方には、「ギネス認定証」が送られます。

体力年齢がわかるカラダチェックコーナー

- ★体力測定 握力・柔軟性・脚瞬発力の3要素チェックなど、やまびこスケートの森スタッフが測定、解説します。
- ★カラダチェック 内臓脂肪レベル・部位別筋肉量を測定します。一目でわかる結果シートを全員にプレゼント！



古道具 ninjinsan



記憶が定かではないのですが、七年ほど前に現在の店舗の場所をお借りすることができ、一年半くらいの時間をかけ、ボロボロの大正時代の建物を使えるように改装いたしました。

扱っている物は、骨董から古道具、リサイクル品までと、幅広く扱っております。



御田町
小口 おぐち
泰史 やすし



普段は買い取りをさせていただいた家具や家電などを修繕・手入れし、現代にはないデザインや素材感の素晴らしさを伝えるべく、毎日頑張っております。

買い取りは全国各地に呼ばれるため、様々な地方の古いものと対面するのですが、やはり諏訪地方は湿度が低く、歴史的にも文化的にも豊かな地域でしたので、地元が一番面白くて状態の良い物があると感じております。

店舗二階のスペースにはギャラリーがございます。開店以来、中学生から70代までの方が展示を下さいました。古道具屋なのに何故ギャラリーがあるか

というと、私が10代で音楽・本・映画・洋服に夢中だった頃、諏訪圏でそれらを深く扱う店は極端に少なかったからです。

自分自身が地元に根を張り看板を掲げるにおいて、一番大切にしたいこと、それが地元の文化の発信の一翼を担うことでした。諏訪に足りない部分を微力ながら補いたかったのです。

古道具屋というと、何だか一般的ではないジャンルでございますが、マニアックで狭い世界の特異な存在が、この諏訪地域に存在し続けること、これで飯を食べて生きて行くことが、これからの若い世代にも可能性や勇気を与えると考えております。

きつと今来てくれている中学生や高校生が上京し、地元に帰ってきた暁には、新しい風を吹き込んでくれると信じております。

最近は大正から昭和初期SPレコ



ードを大正時代の蓄音機で音楽を聴いていたたく活動もしております。80代の方を中心に、とても喜ばれております。白黒の写真や当時の懐かしい物たちは、脳の活性にも非常に良いそうで、話も弾み本当に盛り上がります。

38歳を過ぎてからの遅い独立での開業ではありませんでしたが、これからも呼んで下さる限り様々な場所に行き、古い物、珍しい物を買取り、楽しい店を続けていきたいと思っております。これからもよろしくお願い致します。

見るだけでも楽しい場所・建物ですので、是非一度来店してみて下さいね。

公民館特別事業 「平和展・戦争と下諏訪」

「戦争と下諏訪」

期 日：8月13日(火)～8月23日(金) ※8月17日(土)、8月18日(日)を除く
 会 場：下諏訪総合文化センター 1階 展示コーナー
 内 容：パネル展示

町民総合文化祭 参加団体募集

参加申込用紙は文化センター内公民館窓口にあります。 ☆新規参加団体歓迎

	開催日	申込締切	対象者
作品展	10月4日(金) ～10月6日(日)	9月6日(金)	町民および町内の 各種団体・学校 ※作品展は個人も対象となりますので、ご相談ください。
芸能祭	10月6日(日)	9月5日(木)	
音楽祭	10月27日(日)	9月6日(金)	

町民大学 下諏訪を学ぶ ③



演 題：「下諏訪 3万年の歴史と未来」

講 師：石^{いしの} 堃^{ほたか} コミュニケーションコンサルタント
 スワニズム編集長

日 時：8月4日(日) 午後1時30分～午後3時00分

会 場：文化センター2階 集会室 ※当日受付可(受講料100円)

3万年前の星ヶ塔黒曜石鉱山に起源を持つ下諏訪は、世界で最も長く歴史が持続している町とすることができます。その歴史を貫いてきた諏訪信仰は、どのような意味を持っているのでしょうか。春宮・秋宮とは？ 御柱・御渡とは？ 最新の歴史研究の成果を踏まえながら、下諏訪町の現在と未来を考えます。

〈お問い合わせ・申込先 下諏訪町公民館 ☎28-0002〉

八月のこゑ

小学四年生。夏休みに入った朝、虫かごを担いだ私はまだ薄暗い道を友達と待ち合わせの辻に向かっていた。車はほとんど通らない未舗装の旧道をひたすら歩き、約束の場所に近づくと、向こうからT君もやってきた。「おはよつ。じゃ、行くか」二人で目的地に向かう。急坂を上り、大きな木の下に着く。お目当ての秘密の木だった。

「俺が登るでな。泉君は下で捕まえて」と言ったT君は、するすると木に登り、枝分かれのところ立って、足でガンガン枝を蹴る。すると黒いものが10、20…と落ちてきた。目の前にアカンドウジ、近くにハイノウ、隣にメスの本カブト：虫かごではもどかしく、T君の持ってきたお菓子の箱に投げ込んでいく。カナブンやカミキリムシなども混じっていたが、こちらは放してあげた。箱一杯になったカブトムシたちは元気に蠢いている。

「やったね」僕たちは大満足だった。T君の家で、競争させたり対戦させたりして至福の時を過ごした。山分けにして持ち帰ったが、彼らが機を見て逃げて行ったのか、夏休み宿題展示コーナーに並んだのか、記憶は定かでない。

先日、店で売られている彼らを見て、そんな思い出が蘇ってきた。50年以上経った今、深山の秘密の木はどうしているのかなと思う今日この頃である。

(松崎 泉)